

津軽ダム建設に伴う発掘調査

水上(2)遺跡現地見学会資料

日時：平成20年9月28日(日曜日) 1回目 11:00～・2回目 13:30～



水上(2)遺跡：石棺墓の作業状況

平成20年度砂子瀬遺跡外発掘調査要項

遺跡名及び所在地：砂子瀬遺跡(青森県遺跡番号25008)

中津軽郡西目屋村砂子瀬字宮元

水上(2)遺跡(青森県遺跡番号25025)

中津軽郡西目屋村砂子瀬字水上

大川添(2)遺跡(青森県遺跡番号25019)

中津軽郡西目屋村川原平字大川添

調査期間：平成20年5月7日から同年10月31日まで

調査予定面積：砂子瀬遺跡 4,400㎡

水上(2)遺跡 10,000㎡(調査対象面積20,000㎡)

大川添(2)遺跡 5,600㎡(調査対象面積26,000㎡)

調査機関：青森県埋蔵文化財調査センター

はじめに

津軽ダム建設事業に伴う遺跡調査は平成15年度から続けられ、川原平(1)・川原平(4)・大川添(2)・砂子瀬・水上・水上(2)遺跡などで本調査や範囲確認のための試掘調査が行われています。調査は平成26年度まで行われる予定で、遺跡数は20カ所、面積にしておよそ60万㎡もあります。



過去の調査成果

川原平(1)遺跡

川原平(1)遺跡は、標高約200mほどの河岸段丘上に位置し、現況は畑地や杉林です。遺跡の大部分は、以前に目屋ダムが造られた時に、旧砂子瀬集落の一部が移転したため、宅地や畑地として造成され、かなり削平されています。一部残存する部分からは、縄文時代後期後半から晩期にかけての遺構が確認されたほか、多量の遺物が出土しています。



範囲確認調査の状況



注口土器の出土状況



縄文時代後期の土偶

砂子瀬遺跡

砂子瀬遺跡は、湯ノ沢川と岩木川に挟まれた標高約 190mの河岸段丘上に位置しています。遺跡の大部分は、川原平遺跡と同様に移転した集落によって削平されていました。

礫層を掘り下げると、残存している部分から、縄文時代の土坑や配石(組石)遺構、土器埋設遺構などが確認されています。特に県内では青森市の小牧野遺跡に次いで2例目となる屋外配石炉も検出されています。遺物は縄文時代後期後半から晩期にかけての土器や石器



屋外配石炉



遺構確認

土器埋設遺構

が出土しています。

水上遺跡

水上遺跡は、岩木川右岸の標高約 200m河岸段丘上に位置しています。遺跡の大部分は、ほかの遺跡同様に削平されていましたが、大山神社とその周辺は残存していました。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡や土坑のほか、道路(階段)状遺構などが検出されています。出土した遺物は、縄文時代中期～晩期にかけての土器や石器があげられます。



道路(階段状)遺構



遺構精査作業



水上(2)遺跡全景(空撮)

水上(2)遺跡

水上遺跡は、岩木川右岸の標高 180mほどの河岸段丘上の旧砂子瀬集落跡に位置しています。遺跡の範囲はおよそ 20,000 m²ほどありますが、その大部分が、集落の建物などによって壊されて、遺跡の中央部分から岩木川沿いに縄文時代の遺構が残存していると思われます。

調査で確認された遺構は、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑、土器埋設遺構などのほかに、同時期の土器や石器が段ボール箱で 50 箱以上出土しています。

また、縄文時代後期と考えられる石棺墓(組石石棺墓)が 9 基検出されました。石棺墓は、板状の石を用いて石室を造っている墓で、県内では鯨ヶ沢町の餅ノ沢遺跡のほか津軽地方を中心にこれまでに 10 遺跡が確認されています。

調査は、7月下旬に始まって約2ヶ月経過しましたが、遺構を確認できた範囲は遺跡の半分ほどで、現時点での遺跡の全容は不明です。調査は11月中旬まで行われる予定で、今後新たな発見があるかも知れません。なお、水上(2)遺跡の発掘調査は、次年度も行われる予定です。

石棺墓(右上)・石棺墓埋葬想像図(右下)

